

図書室だより

令和2年3月



港区立青山中学校

校長 中田 和直
図書室 鈴木・森・小川



立春を過ぎ、少しずつ日が長くなり、澄んだ青空に梅の花が映える季節になってきました。パステルカラーの風をまとうて、春が窓辺で微笑んでいます。

春は、出会いと別れの季節です。特に3年生は、4月から始まる新しい生活に心はずませながら、残り少ない青山中学校での日々を大切に過ごしているのではないのでしょうか。

いつでも、どこでも、どんな時でも、本は変わらずみなさんのそばにあります。これからもみなさんに、素敵な本との出会いが訪れますように！

春の朝読書におすすめの本



「**サクラ咲く**」

辻村深月:著/光文社/913ツ

ある日、図書室で本をめくっていると、一枚の紙が滑り落ちた。見知らぬ相手と文字でつながる表題作『サクラ咲く』の他に、二つの作品が収録されています。青春まっただなかのあなたへ。



「**春期限定いちごタルト事件**」

米澤穂信:著/東京創元社/913ヨ

名探偵面をして目立ちたくないのに、今日も目の前には奇妙な謎が現れる。小市民を目指す小嶋くんと小山内さんの、コメディタッチの日常系連作ミステリ。さらっと読めてしっかり面白い一冊です。



竜天に登る

「竜(りゅう)天(てん)に登る」という、春の季語があります。中国最古の字書『説文解字(せつもんかいじ)』には、竜が「春分にして天に登り、秋分にして淵(ふち)に潜(ひそ)む」とあります。秋分から半年間淵に潜んでいた竜が、春分の生氣に乗って天へ駆け昇り、雲を起し雨を降らせる、壮大な絵画のような言葉です。

みなさんも3月20日の春分の日には、

天へと駆け昇る竜の姿を思い描いてみてくださいね。

「**読んでわかる俳句 日本の歳時記 春**」

宇多喜代子:著/小学館/911ニ1

には、「竜天に登る」の他にも、天文・植物・行事など、色とりどりの春の季語がカラー写真と共に紹介されています。

美しい日本語で、豊かな春を楽しんでみませんか？



詩はいかがですか？

「**吉野弘詩集**」 **吉野弘:著/角川春樹事務所/911ヨ**

紡がれるその言葉は、多彩でユーモラス、優しく柔らかく、深く温かい。吉野弘さんならではのエッセンスがたっぷり詰め込まれた詩集は、まるで言葉の宝箱のようです。何気なく開いたページに、お気に入りの一編が見つかるかもしれません。

図書室からのお知らせ

□3年生の図書の最終貸し出し日は、3月5日(木)です。

貸し出し中の図書は、卒業式までに必ず返却してください。

図書室は、みなさんの

「読みたい・知りたい・調べたい」を応援しています。

